

大阪大学総合学術博物館

第20回特別展

上下 1950-2000 写真 肖像



2024
7.17 [水]
↓
8.17 [土]



開館時間 / 10:30~17:00
(入館は16:30まで)

休館日 / 日曜・祝日
8月13日~15日

入館料 / 無料

会場 / 大阪大学総合学術博物館
待兼山修学館 3階 多目的室

主催 / 大阪大学総合学術博物館、豊中市
<https://www.museum.osaka-u.ac.jp>



[アクセス]
阪急電鉄宝塚線「石橋阪大前」より徒歩約10分
大阪モノレール「柴原阪大前」より徒歩約20分
※公共の交通機関をご利用ください。

 **大阪大学総合学術博物館**
〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-20
TEL 06-6850-6284



 **豊中市**

① 服部本町の自転車の少年(1955年頃、八木理子氏提供) ② 庄内の母と赤ちゃん(1963年頃、個人提供) ③ 庄内の母と少年(1965年、西村尚氏提供)
④ 服部天神宮の秋祭り(1954年、上芝英司氏提供) ⑤ 浜の砂遊び(1977年、小林和正氏提供)

トヨナカ写真
1950-2000
マチの肖像



トヨナカ写真。それは、ちょっとノスタルジックで、
年をへて変わってきたマチの肖像。過去を見つめ、新しい魅力をさぐる旅のしるべ。



戦後、復興の槌音が響き始めた頃、豊中市は未だ田畑や丘陵が広がるのどかな姿を見せていました。古くから続く村々と阪急沿線の郊外住宅地があったものの、市域全体での住宅の密集はみられませんでした。その後、隣接町村を編入して市域を拡張し、1955年には庄内町を編入。人口は12万人を超えました。

高度経済成長期になると開発の波が押し寄せ、公営・公団住宅が建設され、1960年代には千里ニュータウンの開発が始まりました。暮らしも、マイカーや家電製品の普及により変化し、1970年には千里丘陵で日本万博博覧会が開催されました。以後も発展は続きましたが、阪神淡路大震災は甚大な被害をもたらし、生活や景観に大きな影響を与えました。

本展では、市民のみなさんや豊中市が撮影した写真約70点を通して、1950年から2000年の半世紀に変貌していった豊中市の街と暮らしを振り返ります。

特別展 トヨナカ写真／マチの肖像 1950-2000

ミュージアム・トーク

7月27日(土)、8月3日(土)いずれも14:00～(30分程度)
当日、展示室入口にお集まりください(事前申込み不要)
解説・船越幹央(大阪大学総合学術博物館副館長)

